

▼フレンズコーナー

長崎発の「道守養成ユニットの会」の活動

道守養成ユニットの会 会長  
(有)吉川土木コンサルタント 取締役社長  
吉川 國夫



■道守養成ユニットの会とは

長崎大学の道守養成講座は 2008 年に始まり、技術者コースの道守補、特定道守、道守補と一般市民向けコースの道守補助員が養成されています。県内各地に道守認定者が養成され、10 年目の 2017 年に組織的な活動ができる環境が整いました。組織として活動すれば、ボランティア活動や技術者としての活動が産官学と連携して幅広くでき、自治体のインフラ維持管理・長寿命化を大学と連携して効率的に進められ、新たな取組を創出する戦略的な活動の拠点にもなり得ることができます。以上を背景に 2017 年 11 月に会が設立されました。2021 年度現在の会員は約 300 人で、長崎、佐世保、県央、島原、上五島、下五島、対馬及び壱岐の 8 地域部会で活動、20 歳代から 70 歳代まで多様な年齢層の産官の技術者が参加しています。会の目的は以下のとおりです。

(目的) 本会は今後急速に増大する高齢化社会資本の長寿命化及び地域住民の社会資本に対する帰属意識高揚の促進を図り、もって地域住民の安全・安心の向上及び地域経済の健全な発展等の地域創生に寄与することを目的とする。

■会のボランティアとして、技術者としての活動項目  
会のロゴマークを作成し、ホームページ等で活動を紹介しています。



- |   |   |
|---|---|
| <p>○全体で取組む活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①総会、特別講演会の開催</li> <li>②建設現場見学会の開催</li> <li>③道守養成講座の講師担当 (技術の継承)</li> <li>④岐阜大学 ME 等や土木学会 インフラパートナーとの交流</li> <li>⑤イベント等への出展</li> <li>⑥大学の道守関係成果報告会の共同開催</li> </ul> | <p>○地域部会で取組む活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①道路異常通報システムを活用した異常通報</li> <li>②道路見守り活動、清掃活動</li> <li>③フォローアップ研修、技術研修会</li> <li>④長崎県三者合同点検への参加</li> <li>⑤長崎市橋梁点検への参加</li> <li>⑥その他(コロナ禍における医療従事者への感謝の支援等)</li> </ul> |
|---|---|



■主な活動の紹介

○道路の異常通報

県内全道路管理者(国・県・市町)と道路異常通報体制を構築し、道守認定者からの道路異常通報を 2010 年度より実施しています。この通報システムは、専門的知識をもった県内各地に居住する認定者が道路の異常(ポットホール、ガードレールの破損、照明柱の腐食、側溝の蓋の破損、橋梁のうき・剥離等)を発見した場合、道守シートに発生位置や内容、写真を添付して大学に通報、大学から連絡を受けた道路管理者が現地を確認して対応し、対応シートを大学経由で通報者に転送するシステムです。大学との協働による質の高い通報が道路の安全・安心と予防保全に役立っていると評価さ

**道守異常通報システムの説明**

道守シートとは?  
→道路構造物の異常を発見した際に記載するシート

早期発見・対応による  
維持管理費用の縮減  
安全・安心の向上

**通報事例** (例) 陥没スリット

対応事例 (補修完了)

道守シート提出件数

年	提出件数
2010	40
2011	80
2012	102
2013	141
2014	118
2015	129
2016	103
2017	91
2018	127

れています。

#### ○道路見守り活動

会の地域部会が長崎県愛護団体(道路)に登録して、道路の見守り活動(ボランティア点検・通報とゴミ拾い)を年に数回実施しています。長崎地域では2012年に開始、年4回土曜日の午前中に開催しています(5月・7月・10月・12月)。毎年、子どもを含む100人から120人が参加しており、道守認定者の他に大学の教員、学生の参加もあり、環境教育の場にもなっています。

#### ○長崎県三者合同点検

県技術職員、同OB及び道守認定者からなる「三者合同点検」を2012年度から実施しています。点検内容は道路橋点検と道路防災(道路斜面)・トンネル点検で、さらに2014年度から県重点維持管理橋梁(30橋、特殊橋梁等)点検にも特定道守以上が参加しています。点検に先立って、事前点検研修会を2日間開催。地域部会単位で参加するところもあり、最新の点検技術の情報取得による点検の質の向上、点検フィールドの活用による業務経験の蓄積、産官の技術交流、技術の継承とモチベーション向上という成果があります。



道路見守り活動の様子



平戸大橋の点検作業



断面修復工の実習

#### ○長崎市の2巡目の定期橋梁点検

市は小規模橋梁の点検・補修の効率化及び対策の迅速化を図るために、長崎大学との橋梁点検の手法や橋梁補修後の健全度に関する受託研究を2019年度に開始しました。会と連携した定期点検を行うことで市職員のスキルアップと対策の迅速化に向けた取組を目指しています。定期点検に先立って、市職員に点検事前研修を行い、点検後は大学、市及び認定者で判定検討会を開催しています。事前研修では点検に加えて断面修復やひび割れ注入等の補修にも着手しています。この取組によって、管理者、会員、大学教員が立場を超えて維持管理について議論できる場ができています。

#### ○道守養成講座等の講師を認定者が担当

道守認定者は大学が実施する道守補助員コースの座学・橋梁点検の現場実習、道守補コースのコンクリート構造の点検演習、工業高校生向けの「インフラ長寿命化体験実習」等の講師をしています。特に「インフラ長寿命化体験実習」については、道守認定者が主体となって県内3工業高校周辺の橋梁の点検実習と道守シートの作成の講師を担当しています。経験豊富な先輩から話を聞く場にもなり、土木分野の仕事のやりがいや技術伝承の役割も果たしています。



コンクリート構造の点検演習

#### ○医療従事者への感謝の活動

対面による会の活動が制限される中、会はコロナ禍で献身的に取り組む医療従事者に感謝の気持ちを伝えようと、2021年5月～7月にかけて飲料水等の提供をしました。県内8地域の部会長が地域の医師会等とコンタクトを取り、すべての地域部会でスムーズに実施できました。地域部会長と医師会長との手渡し式では、「インフラの町医者」を目指す道守の活動の目的や医療従事者への感謝の思いを伝えました。地域部会の役割が果たせるとともに、会として初めての対外的な活動となりました。



■道守養成ユニットの会の活動や道守養成講座についてはホームページやFacebookで紹介しています。道守養成ユニットの会HP (<https://www.michimori-unit.org>)、長崎大学インフラ長寿命化センターHP (<https://ilem.jp/>)、Facebook (<https://www.facebook.com/ilem.nagasaki/>)。活動紹介する広報誌「道しるべ」も刊行しています。